

# 図書館だより

石川県立金沢北陵高校図書館  
2019年3月号

## 本の返却、待っています。

貸出期間を過ぎている本を  
持っている人は、早急に  
返却してください。

## <春休みの貸出>

長期のお休みに入るので、貸出のルールを一部変更します。

## 貸出冊数：無制限！！

いつもは3冊までですが、春休み前は読みたい分だけ借りられます。  
借りたら期日までに返却してくださいね。

## 貸出期限：4月12日（金）まで

3月13日（水）～4月2日（火）の貸出分が対象です。



【読書ではなく本について】<工業科 孫田 多佳之>

本をあまり読まない生徒向けに本稿を書いています。

私は「読書」と捉えると敷居が高くなるので、「本」と捉えています。

たとえば、写真右上の私の本のチョイスを紹介します。

左は昭和41年に本校に入った「新しい数学」（新しくない！）で、

右は最近入った数学の本。

昔と今と比較するためにパラパラと見ただけでした（読んでない）。

「本」探しは楽しい「ネタ」探しだと思っています。

自分の人生はネタとしてもそんなに悪くないかなと勝手に思っています。しかし、ネタの質を上げるためには長期間の段取りが必要なのでネタの数は多くないことをこの年になって薄々と気づいてきています。本はこのように見て開くだけで手早くネタが集まるので便利だと、最近は感じてきています。

さて先月、3年の中島祐太郎君と鉄工機電協会の表彰式に行ってきました。表彰式の後、企業の偉い方と懇談する機会がありました。そこで私は「中島君は1年次に怪我をして運動部をやめ、2年次からR&Dプロジェクト部に入ってきました。運動部出身の中島君は試合経験が豊富で、ロボット大会の本番に強かった。しかし、中学校の時から運動部で大会経験のない生徒は大会本番で緊張して失敗する。最近はこの傾向が見えてきたのでR&Dプロジェクト部でも遠征や練習試合経験を増やしている。けれども文化部全体としては大会のような緊張する経験が少ないので、運動部経験のない生徒が大切な仕事やプレッシャーのかかる仕事で失敗しないか心配である。」と話をしました。企業の偉い方は「それなら本を読めばよい。」「本を読めば新しいことがいっぱいあってハラハラドキドキ、緊張するので本番に強くなる。」と助言してくれました。はじめは「小説」のジャンルだけかなと感じましたが、ジャンルは問わないようです。

大学の時、本好きの友人から「孫田君は『新書』でも読んでみたら？短い時間で興味ある部分だけ読めばいいだけだから」と勧められたことがあります。「新書」とは「現代人の現代的教養を目的とした本」のことだそうです。目的がハッキリとしているから読みやすかったです。何冊も読むと、興味ない本にも手が伸びるようになってきます。「現代人の現代的教養を目的とした本」なので、興味ある・なしの尺度より、「自分にとって新鮮なネタか」が尺度となってきます。そういう意味でも最初に紹介した昭和41年の本も「新鮮なネタ」でした（パラパラ読みしかしていませんが）。



新しい  
数学

楽しむ  
数学  
10話